

提出2013年2月20日

2012年度（前期）

終の棲かはどこで・・・

テ　ー　マ「いえで死ぬということ、病院で死ぬということ」

申　請　者　　島根がんケアサロン  
代　表　　納　　賀　　良　　一

公益財団法人　在宅医療助成勇美記念財団の助成による

## 緩和ケア・在宅医療講演会のご案内

拝啓 清秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝こととお喜び申し上げます。

さて、島根がんケアサロンでは、『公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団』の助成を受け、下記のとおり緩和ケア・在宅医療講演会を開催する運びとなりました。

医療、福祉、介護にご尽力いただいております皆様におかれましては、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

### 記

1. 日 時 平成25年1月19日(土) 14:00～

2. 会 場 益田市立保健センター 3F 大ホール  
(駅前ビルEAGA)

3. 講 師 ケアタウン小平クリニック院長  
理事長 山崎 章郎 先生  
※講師紹介

◎やまざき ふみお

外科医。1947年福島県生まれ。75年千葉大学医学部卒業、千葉大学付属病院第1外科勤務。83年から1年間、北洋サケ・マス母船の船医、南極海底調査船の船医を経験。84年千葉県八日市場市民病院消化器科医長。院内外の人々とターミナルケア研究会を開催し、末期がん患者の延命・がん告知・ホスピスの問題を提起。91年聖ヨハネ会総合病院桜町病院ホスピス科部長。05年「ケアタウン小平」を開設、在宅医として現在に至る。

著書に『病院で死ぬということ』『続・病院で死ぬということ』『ここが僕たちのホスピス』『僕のホスピス1200日』『僕が医者としてできること』など

<http://caretownkodaira.net/npo/>

4. 内 容 『いえで死ぬということ・病院で死ぬということ』

5. 対 象 医療・福祉・介護に関わる全ての皆様。

6. 申し込み 別紙申込書にご記入の上、ファックスにてお申し込みください。  
※締め切り 平成25年1月7日(月) 17:00

7. その他 ・駐車場：駅前ビルEAGA駐車場をご利用ください。  
※駐車券を会場へお持ちください  
・参加費：無料

8. 問い合わせ ほっとサロン益田 代表 納賀良一 電話：090-8718-4441  
益田保健所 医事難病支援グループ 電話：0856-31-9549



終の棲家はどこで...

# いえで死ぬということ・ 病院で死ぬということ

ケアタウン小平クリニック院長

講師 **山崎 章郎 先生**

日時：平成25年1月19日(土) 14:00~

会場：益田市立保健センター 3F 大ホール

対象：医療・福祉・介護に関わる全ての関係者

参加料：無料



やまざき ちろみお  
山崎 章郎 先生

ケアタウン小平は、地域を中心としたコミュニティーをベースに介護・医療・福祉などのサービスを提供している施設です。ここでの取り組みの様子をお話しさせていただきます。

外科医。北洋サケ・マス母船の船医、南極海底調査船の船医を経験。84年千葉県八日市場市民病院消化器科医長。院内外の人々とターミナルケア研究会を開催し、末期がん患者の延命・がん告知・ホスピスの問題を提起。91年聖ヨハネ会総合病院桜町病院ホスピス科部長。05年「ケアタウン小平」を開設、在宅医として現在に至る。著書に『病院で死ぬということ』『続・病院で死ぬということ』（すべて文春文庫刊）など多数。

主催：島根がんケアサロン

共催：島根県益田保健所、益田市、益田赤十字病院

本講演会は、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成金で運営されています。

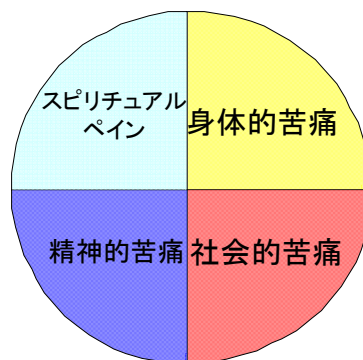
終の棲家はどこで…  
いえで死ぬということ  
病院で死ぬということ

ケアタウン小平クリニック  
山崎章郎

1983年

「死ぬ瞬間」(E・キューブラー・ロス)  
との出会い

安楽死を望むのは？



全人的苦痛

#### ホスピスで学んだこと

- 苦痛症状緩和の大切さ(WHO方式など)(医療)
- インフォームド・コンセントの大切さ(医療)
- チームケアの大切さ
- ボランティアとの協働の大切さ
- 生きる意味を見失ってしまった人びとへのケア(スピリチュアルケア)の大切さ
- グリーフケア(悲嘆ケア)の大切さ

スピリチュアルペインとケア

## スピリチュアルペイン

- ・ 生きる意味や目的、あるいは自己の存在の意味や価値を見いだせない苦痛

(村田久行)

- ・ 死んでしまいたいと思うような苦しみ(希死念慮)

(山崎章郎)

## スピリチュアルケアの条件1

アウシュビッツの被害者とその家族、または関係者が、常に求めているものは

- 話し相手であり
- 理解されることであり、
- 触れあいである

(ハンス・ヨナス アウシュビッツ後の神概念)

## スピリチュアルケアの条件2

- ・ つらい時にはつらい
- ・ 苦しい時には苦しい

と丁寧に話を聴いてくれる人が

- ・ 分かってくれる人
- ・ 理解してくれる人

(小澤竹俊)

## 傾聴

人は心から聴いてもらえると、気持ちが落ち着き、考えが整い、生きる力が湧いてくる

聴くことは、それだけで援助になるのである

(村田久行)

## 緩和ケアの本質

緩和医療は当然のこととすれば

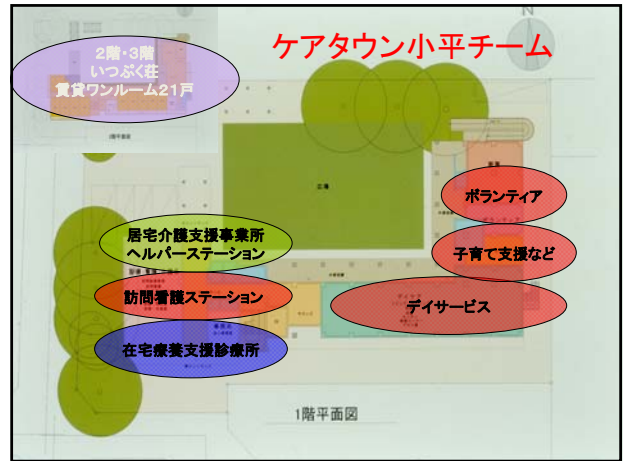
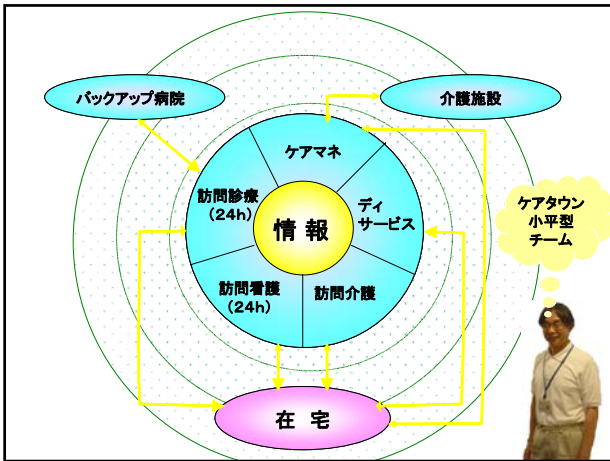
緩和ケアにとって、最も大切なケアは

生きる意味を見失ってしまった人々に対するケア

すなわちスピリチュアルケアである

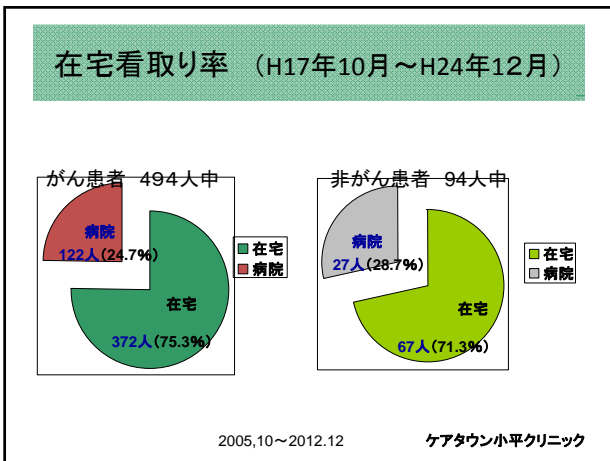
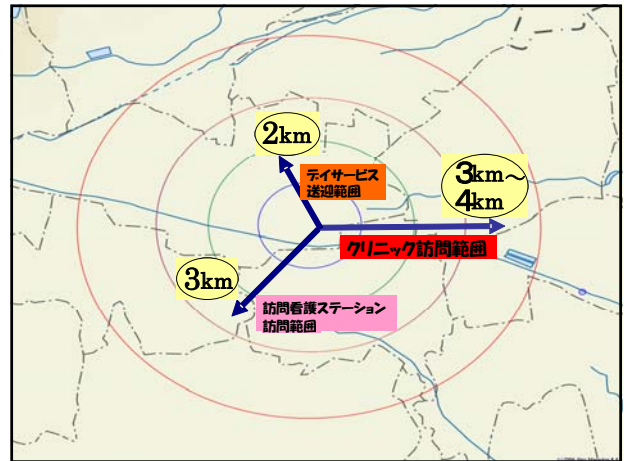
## 地域包括ケアとしての ケアタウン小平の取り組み





### ケアタウン小平の特徴

- ・運営主体の違う、既存事業体が一ヶ所に集約したチーム。
- ・NPO法人が中核事業体
  - 1: NPO法人理事は無償ボランティア。
  - 2: 現場の収入は現場に返す。
  - 3: 寄付は地域ケアと現場環境の向上に。
  - 4: ボランティアとの協働が要。



### 場の持つ力

- 1: 苦痛を軽減する
- 2: 変容する家族の力

## ケアタウン小平グリーンケア

- 1: 患者さんの死後、1ヶ月半のころに訪問看護が花を届ける(クリニックと連名で)
- 2: 年2回 ご遺族とスタッフの茶話会  
患者さんの死後6カ月以内のご遺族
- 3: 年一回 ケアタウン小平とご遺族の交流会  
患者さんの死後 1年以上経過したご遺族

## ケアタウン小平在宅遺族会

### 「ケアの木」誕生

## ケアの木活動

- 1: 遺族会総会  
活動計画、会計報告、分かち合い
- 2: 語ろう会  
軽食を創り、会食しながら親睦を図る
- 3: ケアの木サロン(毎月第3木曜日 午後2時から3時半)  
気楽に集まり、お茶を飲みながら、楽しいおしゃべりをする

## ケアタウン小平その他の事業

2013年1月5日作成

## 山崎章郎先生へのトーク

- 1) 集合の御礼
- 2) 私の病気と県下がんサロンの展開 28 サロン
- 3) 勇美記念財団から助成を受ける 小冊子とアンケート
  - ・山崎先生をお呼びしたい旨 申請書に記入
- 4) この講演会の開催趣旨 患者視点から見ると・・・
  - ・国の流れは在宅へ
  - ・10年～15年後 病院があふれる
  - ・益田圏域の在宅医療の現状は遅れている
  - ・訪問看護ステーション 2カ所のみ
  - ・家で看取ってほしい患者が多いが・・・
  - ・自分らしい最期を送りたいと願うならその願いをかなえる街
- 5) 山崎先生との出会い
  - ・2007年 第1回医療の質・安全学会で表彰を受ける
  - ・患者の部 島根がんケアサロン
  - ・コミュニティの部 ケアタウン小平
- 6) 選考委員長 国際医療福祉大学 大熊ゆき子先生
- 7) ゆきさんの「えにしの会」 東京 内幸町 日本プレスセンター
  - ・400名ほどの参加 毎年参加している
- 8) 山崎先生はスピーカーとして参加 2度ほど

このご縁を機に この益田圏域が在宅医療の先進地と肩を並べられるように まい進してほしいです。  
これが患者からのメッセージです。

- 9) 資料を後配りすることを参加者に伝える (宮崎さん)

死ぬと言う大仕事を果たす3カ条

- ・医療は限定医療に留める
- ・老「病」死」をわが事として引き受ける覚悟をする
- ・繁殖を終えたら「死を視野に入れた」生き方をする



2013年2月1日作成

## 山崎章郎先生の講演会を終えて

島根がんケアサロン 代表 納 賀 良 一

ようやく 終了した。  
お天気が良かったのが幸いした。  
100名ほどの参加者があった。それも ほとんどが医療者だった。  
友人の開業医に言われていたことは 冬のイベントは苦しいと。  
特に 航空機を使う場合 天候により遅れが出る。  
前日も お天気が良かったのに40分遅れの到着が13時45分となっていた。  
これなら 開始時間には間に合わない。いろんなケースを考えていたが  
幸い 予定時間より10分も早く到着し安堵した。ラッキー。  
講演会は非常に評判がよく、益田市ではこれまでこのテーマはあまり開催して  
いない。多分 初だったかもしれない。  
患者が主催して医療者が対象とは逆転の発想だったが、私としては医療者に  
もっと在宅医療に真剣に取り組んでほしいがための施策であった。  
ハッパをかける意味も有った。  
参加者はそれぞれ何かを感じていてくれたようだった。  
アンケートの回収率も良かったのはその意味でもあったと思われる。  
グリーフケアの話があったが、患者側から見て 患者よりも世話をする家族の  
大変さは妻を先に看とった私には身にしみて感じている。  
今後 このような体制が望まれる。  
病院は死亡退院した家族をもっと追っかけてほしい。 家族が落ち込んでいる  
のは目に見えている。  
課題が山積したが市民もしっかりと勉強してほしいので 今後もこの内容の講  
演会は継続してゆきたい。  
ご支援のほど 宜しくお願い致します。